

天敵を活用したハウスレモン栽培

【平成30年5月22日掲載】

東広島市安芸津町に1ターン就農した甲斐直樹(かい なおき)氏は、天敵(スワルスキーカブリダニ)を活用し、ハウスレモン10aを栽培しています。

ハウスレモン栽培では、ハダニ類をはじめチャノキイロアザミウマやコナジラミ類などの害虫が多発し、その抑制の成否が収益に大きく影響します。天敵の活用により、これらの害虫対策になると期待されましたが、十分な効果が得られず普及していませんでした。

昨年度、当所がバンカーシート®を利用したハウスレモンの天敵放飼試験を行ったところ、害虫による被害を効果的に抑えることを確認しました。

さらに本年は、放飼時期を5月上旬から満開期の3月上旬へ変更し、こまめな灌水の実施、草生栽培など、ハウス内で天敵が定着・活躍しやすい環境への改善を図ることを提案しました。

以上の取組みにより、昨年以上に害虫の発生を抑えていることを確認しています。今後、害虫被害を抑制して順調に肥大が進めば、7月～9月に収穫・出荷される予定です。

現在、ハウス内でレモン樹を育成中で、成園化すれば収穫量がさらに増える見込みです。当所は成品率の向上、作業労力軽減など新たな取組みを支援していきます。

※バンカーシート®は農研機構を中心に開発された天敵増殖資材です。



バンカーシート®



ハウス内で生育中のレモン